総長挨拶

○はじめに

2012年（平成24年）4月1日をもって総長に就任いたしました。これからの6年間の任期中に取り組むべき課題について私自身の基本的な考えを述べさせていただきます。

東北大学は、1907年（明治40年）の建学以来、すでに1世紀以上の歴史を有する総合大学として、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げて優れた人材を輩出し、数多くの研究成果を世に送り出してきました。今、私達は東日本大震災での被災経験をはじめ、産業収益力の低下や少子高齢化、グローバリゼーションに伴う国際競争の激化、地球規模の環境問題など、困難な課題に直面しています。このような状況の中、東北大学が社会からの負託に応え、その本来の使命をより高い水準で果たすべく、『ワールドクラスへの飛躍』と『復興・再生の先導』の2つの目標を達成したいと考えています。

○『ワールドクラスへの飛躍』

第一に、教育研究レベルの一層の向上を図り、『ワールドクラスへの飛躍』を目指します。まず教育面では、知識を覚えるだけではなく、知性を磨き、その知性を社会のために発揮していく―そのような人材を育てるために必要なリベラルアーツとは何かを見直します。そして、異なる国籍や専門の人々が集う中で、学際的かつ多様な学びができる環境を整え、優れた語学力とコミュニケーション能力を備えたグローバル社会に対応できる人材を輩出していきます。私達が今回の震災を経験して痛感したことの一つは、問題の本質を見抜いて判断を下せる社会のリーダーが決定的に不足していることです。社会の変化を見据えながら、いかにして国際的に通用するリーダーを育成するか、現代社会で必要なリベラルアーツとは何か、それをいかにして専門教育と両立させるか、課外活動などの全人格的な学びの機会をいかにして充実させるかなど、いずれの課題も最優先で検討していきます。

研究面では、世界を牽引するトップレベルの研究拠点として、先端的・融合的な研究を推進していくと同時に、基盤的な研究を拡充していきます。研究科や研究所ごとにその現状と課題を分析し、変革の方向性を明確にしたうえで着実な機能強化を図ります。優れた研究分野をさらに伸ばし、弱点については強化していきます。もとより大学の研究は個人の発想に基づいた自由研究が基本ですが、国民と社会からの負託を考えていくとき、戦略的なフォーカスも必要となるでしょう。大震災や原発事故を受けて社会の価値観が大きく変化しつつあることを踏まえ、大学全体として総合的・学際的な視座から人類共通の課題を明らかにするとともに、その解決のために総力を結集して取り組んでいきます。同時に、直ちには役に立たなくとも広い意味で社会を豊かにする基礎研究についても重視していきます。基礎と実用の研究が共存・融合することによって新たな研究の地平を切り拓いていく、そのような取り組みを強力に推進します。

○『復興・再生の先導』～東北大学復興アクション

第二に、『東北復興・日本再生の先導』としての役割を果たしていきます。被災地では復興の兆しが見え始めているものの、いまだ本格的な復興へのビジョンは描ききれていません。東北大学は被災地の中心にある総合大学として、復興に全力を傾けていく使命があります。新しい知を創造し、地域の再生を力強く支援します。産官学の連携を通して新たな産業を興し、雇用を増やして東北の活性化を図ります。ひいては閉塞感のある日本そのものを牽引する知のエンジン・原動力の役割を果たします。すでに、震災直後に立ち上げた「東北大学災害復興新生研究機構」の諸活動を通して、「災害科学国際研究所」の新設や「東北メディカル・メガバンク機構」の発足など、復興・再生へ向けた多様なプロジェクトを推進しています。今後も、オールジャパン、さらにはグローバルに広がる協力体制を構築し、世界の英知を結集してこの難局を乗り越えていく決意です。

○未来を創造する担い手として

東北大学は、時代を先取りして未来を創造し、歴史に自らを位置付けることができる存在であると信じます。人類社会の未来を担うワールドクラスの教育研究拠点として、国家や地域を超えてミッションを実現していく決意です。そのために、責任ある経営・推進体制を強化するとともに、本学の目指す方向を一層明確にする具体的戦略の検討を深めていきます。東北大学が果たすべき使命、取り組むべき活動を皆様にご理解いただき、多くの方々とともにその実現に努めることにより、平和で公正な人類社会の発展に貢献していく所存です。

2012年6月

東北大学総長　里見　進